保健師
最前線

住民と連携した
地域づくり

京丹波町
島田　恵子さん

綾部市で生まれ育ち、将来の夢は看護師。保健師である姉の勧めもあり、最終的に保健師の道に進んだ。現在は、平成18年に開設された地域包括支援センターに勤めている。

京丹波町の人口はおよそ16,000人。約34%が65歳以上、そのうち約20%が75歳以上と、全国の中でも高齢化が進んでいる町で、すでに2025年の人口構成をすでに先取りしている状態だ。

主な業務として、介護保険利用者の相談や居宅支援など、総合的に介護支援を取り組む中で、認知症が絡むと複雑なケースになることが多いということで、平成22年度からは特に認知症対策事業に力を入れている。

「本人はもちろん、その家族を地域がどのように支えていくが大事ですね。」

できるだけ多くの方に参加してもらえるよう送迎サービスなどの工夫をしながら、毎月、家族交流会を開催している。同じ境遇の者同士で話し合い、情報共有はもちろん、「自分だけではない」ということを確認することで、介護者の心の孤立を防ぐことにつながっているという。

また、認知症について学び、それを住民に教えるための一定の講座を受講・修了したキャラバン・メイトというボランティアの方々と協力して、認知症サポーター養成講座を開催している。そうすることで、住民に認知症について正しい知識と理解を持ってもらうよう努めている。積極的に活動をしている中で、地域ごとに温度差があり、これをいかに埋め、町全体に広めていくかが今後の課題となっている。

「人は自然につながるもので、地域の方と一緒になって、町をつくっていけることがうれしいです。」

これまでも、人と関わる中で自然と協力してもらえる人に出会ってきた。人との関わりを大切して、住民さんをはじめ様々な人とつながり、協力しながら、将来的には町全体が認知症にかかっている方とその家族が安心して暮らせる地域となるよう努力したいと語った。